

シュツツのダビデ詩篇と バッハ、メンデルスゾーンの モテットのタベ

ドイツ・プロテスタント音楽のルーツをたどって

指揮：佐々木 正 利

オルガン：劔 持 清 之

合唱：盛岡バッハ・カンタータ・フェライン



1999年4月24日(土) 18:30
盛岡市民文化ホール(大ホール)

ごあいさつ

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

代表 渡辺 信之

本格的な春を迎え、桜の季節となったこの時期、「シュッツのダビデ詩篇とバッハ、メンデルスゾーンのモテットの夕べ」という、長いタイトルの演奏会にお出でいただき、誠にありがとうございます。

盛岡バッハ・カンタータ・フェラインは、1977年2月に発足して以来、今年で満22年を迎えました。当初より、「J. S. バッハの教会カンタータの研究と演奏を通して音楽芸術を追求する」ことを目的として活動してまいりました。そして、その伝統は現在まで一貫して息づき、受け継がれています。一昨年の20周年記念演奏会では、常任指揮者の佐々木正利先生の他に、H. J. ロッチュ氏にも指揮いただき、オール・バッハ・プログラムで好評を得ました。本日の演奏会は、当合唱団単独の演奏会としては、それ以来のものとなります。

今回、私たちの演奏会には、さらに「ドイツ・プロテスタント音楽のルーツをたどって」という副題もついております。これには、大バッハの作品だけを横に展開するのではなく、バッハを中心として、その前後の時代を縦に展開し、それぞれの作曲家の作品に取り組んでみようという試みがこめられています。本日は、バッハと共に、その前の時代にシュッツ、後の時代にメンデルスゾーンを取り上げました。詳しくは、後の佐々木先生の寄稿文や、プログラム・ノートに解説してありますので、ごらんいただきたいと思います。

一昨年の20周年記念演奏会のあと昨年末まで、団員が個々に参加する形の合唱団や、他の合唱団との共演という形で、バッハの大曲である「口短調ミサ曲」に取り組みました。そして、今回演奏する曲目は、それらと並行して昨年初めより練習を重ねてまいりました。さらに、今年11月にはドイツのボン、ベートーヴェンホール等において、ドイツ・バッハゾリステンの共演合唱団として、H. ヴィンシャーマン指揮で、再び「口短調ミサ曲」をうたうことが決まっております。また、年末にはパイプオルガンをバックに、「オルゲル・ピュッヒラインとコラル集」を取り上げる企画も進めております。

そんな中で今晚の演奏会は、いつにもまして合唱がメインになるものです。さらに声部も通常の4声から最大16声部までバリエーションに富んでおります。楽器もオルガンだけに絞って、いっそう合唱のピュアな音の重なりが引き立つようにしています。時々、ソリストも登場し、別の小編成の合唱グループを立てたりもします。演奏する曲目ごとに変わる「編成」もお楽しみ下さい。そして、今回のメンバーは全員が、私たちフェラインだけのメンバーであるということもご承知下さい。自分たちだけで演奏のメンバーをまかなうのは、いろいろ難しい部分もありますが、一方でそれは底抜けに楽しく、無邪気で、純粋なものです。それを今宵実現でき、皆様方と一緒に楽しめることに、至上の幸福を感じております。精いっぱい、うたい上げたいと思います。

今回の演奏会は、各方面から多大なご理解とご協力と、聴衆の皆様のご支援があつて成し得たものと心得ております。衷心より感謝申し上げます。

それでは、「200年におよぶ、ドイツ・プロテスタント音楽のルーツをたどる旅」を、たっぷりお楽しみ下さい。

シュッツのダビデ詩篇と バッハ、メンデルスゾーンのモテットのタベ

ドイツ・プロテスタント音楽のルーツをたどって

曲 目

シュッツ作曲：ダビデ詩篇曲より

HEINRICH SCHÜTZ / Psalmen Davids

第8番 詩篇第84篇「あなたの住まいはいかに麗しいことか」 SWV29

Nr. 8, Psalm 84 Wie lieblich sind deine Wohnungen

第15番 詩篇第100篇「主にむかいて歓呼の声をあげよ」 SWV36

Nr. 15, Psalm 100 Jauchzet dem Herren, alle Welt

第14番 詩篇第98篇「主にむかいて新しき歌をうたえ」 SWV35

Nr. 14, Psalm 98 Singet dem Herrn ein neues Lied

～ 休 憩 ～

J.S.バッハ作曲：モテット第3番「イエスよ、わが喜び」BWV227

JOHANN SEBASTIAN BACH / Motette BWV227 Jesu, meine Freude

～ 休 憩 ～

メンデルスゾーン作曲：3つのモテット

FELIX MENDELSSOHN / Drei Kirchenstücke

「生の只中にありて」 Op23-3

Mitten wir im Leben sind

「アベマリア」 Op23-2

Ave Maria

「今こそ、その時」

Hora est

主催：盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

後援：岩手県教育委員会 盛岡市教育委員会 岩手日報社 盛岡タイムス

NHK盛岡放送局 IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ

FM岩手 ラヂオもりおか 岩手日独協会

“フェラインとともに”

佐々木 正 利

みなさま、本日はお忙しいところ、わたしたち「盛岡バッハ・カンタータ・フェライン」の演奏会に足をお運びいただきまして、まことにありがとうございました。わたしたちにとりまして、本当に久方ぶりの単独ステージである本日のプログラムは、わたしたちが日頃こよなく愛している、ドイツ・プロテスタントの作曲家による合唱曲を取りあげました。あの有名な宗教改革によって、M. ルターがふつうのドイツ人にも聖書がわかるようにしてくださり、それだけではなく、たくさんの親しみあるメロディを教会の讃美歌に取り入れることによって、信仰をより身近なものとしてくださったことは、本当に画期的なことでした。たいへん大ざっぱではありますが、そのルターの約100年後にシュッツが続き、そのちょうど100年後に大バッハが誕生、その有名なマタイ受難曲を初演から約100年後によみがえらせたメンデルスゾーンの功績と、およそ100年スパンでプロテスタントの教会音楽は節目をもっているように思われます。しかし、一見順風にみえるこの3人の人生ですが、その実はそれこそ波乱万丈、内的葛藤に満ちたものでした。30年戦争で散々苦しんだシュッツ、どの地でも上司との折り合いが悪かったバッハ、ユダヤ人というだけで数々の弾圧を受けたメンデルスゾーン。こうしたかれらだからこそ、みずからの切実な折りを宗教曲に込めて、ひとびとの琴線に染みわたる名作を生み出したのです。

わたしたちフェラインは、'86年にはじめてシュッツを取りあげ（ドイツ語による葬送曲）、以来'87年（宗教合唱曲集）、'91年（ドイツ・マニフィカト）、そして今回はダビデによる詩篇集をうたいます。ドイツ演奏旅行にも2度ほどもっていきましたが、なぜかとても評判がよく、バッハのモテットの演奏とともに『シュッツ、バッハの世界的担い手』と新聞紙上で身に余る評価をいただいたものでした。どうしてわたしたちのシュッツはドイツの方々に受け入れられるのでしょうか。いまや世界的な兆候として定着してきた、少人数による見事なバランスとハーモニーの古楽的なシュッツでもなく、W. エーマンやM. フレーミヒらの指揮による伝統的で折り目正しいシュッツでもなく、ただひたすら慣れないドイツ語発音に四苦八苦し、ビブラート過多になるのをいましめ、懸命に聖書の内容を理解しようと努力しているだけなのですが、本当にふしぎです。たしかに、シュッツは音域的にきつくないので、言葉の問題さえクリアできればうたいやすいといえそうですが、でもきっと何かわたしたちのキャラクターに合うものがあるのだと思います。

ここでわたしたちのことをもう一度ふりかえってみます。'77年に「カンタータをうたう会」として発足してのち約数年のあいだは、少人数（といってもわたしたちにはいつの世も“精鋭”という言葉はありませんが）でバッハのカンタータをうたって楽しむ会でした。そのときは、好き（かどうかも知らなか

った) なカンタータを勉強し音出しをするのが目的で、演奏会のために練習するということではなかったのですが、宗教用であれ鑑賞用であれ人前で演奏されることを目的とした楽曲ですから、それをする事によっての新たな発見が必ずあるとばかりに、のちには積極的に演奏会を画策するようになりました。それでも華やかさや脚光とはとんと無縁、何の不満もこだわりもなく、その精神は現在まで脈々と続いています (もっともこの10年来、ヴィンシャーマン氏、岩城氏やロッチュ氏らに見染められて、結構派手な演奏会に出演してはおりますが、いずれにしても会員のみなさんはおごり高ぶりにはやはりとんと無縁です)。'85年のバッハ、ヘンデル生誕300年、シュッツ生誕400年を契機として世の中にバロック・ブームが起き、フェラインの会員も徐々に増えてまいりましたが、その後歴史を重ねるごとに着実に人材とひとの輪が育ち、いまでは運営的なことはもとより、音楽的な面でも頼りっきりで安心できる状況ができてきています。みなさまに公言するのも変ではありますが、代表を中心とした企画運営能力、コンサート・マスターを中心とした音楽指導能力は、本当に優れたものがあります。こうしたリーダーがしっかりしているから、下は10代から上は70代まで老若男女が和気あいあいと集うことができるのだと思うのです。会員にとっては距離ももののかわ、毎週弘前から、二戸から、宮古から、遠野から、水沢から、大東から練習にかよってくるのですから、その熱心さには頭がさがります。もちろん、実質的な距離だけではなく、仕事や学業が忙しくても練習終了5分まえにでも駆けつける会員がいるのもフェラインのいいところ、わたしもがんばらねばと思ってしまいます。

はなしがややそれ気味になってしまいましたが、ある意味では地味な存在のシュッツ、バッハ、メンデルスゾーンの宗教曲を、それこそ好んでうたい、そしてそれなりの成果をあげられるフェラインの、肝心かなめのキャラクターは、会員の地道な努力と曲と会を愛する心情に集約されるといいでしょう。わたしたちのなかには、じつに様々な人間がいます。そして、その一人ひとり全員がみななくてはならない存在として、みなから愛されています。たしかによくうたえる人もいます。でも、うたえる人を集めたことは一度としてなく、みなまったくうたえなかったり、まったく知らなかったりしたところから、練習を積んでうたえるようになったりしたのです。わたし自身はコンクールで育った人間ですから、このようなフェラインのあり方は本当にふしぎです。でも現実なのです。いまわたしは、こうしたフェラインを指揮させていただいていることに心から感謝しています。そして、ますますの発展を祈ります。なぜなら、

『塵も積もれば山となる』を地でいっているのが、フェラインだからです。同時に、「いたずらに自己規制せずに物事に取り組む」精神をもっとも大事にしているフェラインを、ここから応援したいと思っています。それがわたしの座右の銘ですから。本日は、結構フェラインが得意としていると思われる曲種のオンパレードですが、はたしていい演奏ができますかどうか。でもそれもまぎれもないフェラインです。ここを込めて一生懸命練習してきましたから、何とかこれら素敵な作品のすばらしい姿を表すことができたらいいな、そのように願っています。

メンバー

指 揮

佐々木 正 利

オルガン

劔 持 清 之

合 唱

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

ソリスト

シュッツ / 詩篇第 100 篇 Jauchzet dem Herren alle Welt

(小合唱)

ソプラノ	:	吉 田 澄 江	藤 崎 美 苗
ア ル ト	:	小 川 暁 美	加 藤 緒理絵
テノール	:	吉 村 哲	小山内 薫
バ ス	:	小 原 一 穂	阿 部 学

メンデルスゾーン / アベマリア Ave Maria

ソプラノ	:	I. 小野寺 貴 子	II. 福 田 温 子
ア ル ト	:	I. 加 藤 緒理絵	II. 中 野 和 子
テノール	:	I. 及 川 豊	II. 中 野 寛 司
バ ス	:	I. 横 山 泉	II. 芳 賀 郁 夫

メンデルスゾーン / 今こそ、その時 Hora est

バ ス : I. 千 田 敬 之

プロフィール



佐々木 正 利
(指 揮)

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士及び博士後期課程修了。須賀靖元（声楽）、小林道夫（演奏法）、服部幸三（音楽学）、森明彦（発声法）、松本民之助（作曲）、岳藤豪希（宗教音楽）の各氏に師事。1973年にバッハ・クリスマスオラトリオの福音史家で楽壇デビューして以来、バッハをはじめとする宗教音楽のスペシャリストとして揺るぎない地位を得ている。1979年シュトゥットガルトに渡り、L. フィッシャー教授に師事。1980年第6回ライプツィヒ国際バッハ・コンクール声楽部門第5位入賞。同年より1982年までデットモルト北西ドイツ音楽大学に学び、H. クレッチマール教授に師事。在独中は欧州各国の演奏会に招かれ、特に1980年ウィーン楽友協会ホールでのマタイ受難曲では『若き日のP. シュライヤー』と新聞各紙で絶賛される。帰国後もライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ベルリン交響楽団、ブタペスト・フィルハーモニー管弦楽団等、世界各国の著名オーケストラ、N響、読響等、日本の殆どのオーケストラのソリストとして起用され、K. マズア、H. シュタ

イン、H. ブロムシュテット、小沢征爾等、世界を代表する数々の指揮者と共演。また世界的バッハ指揮者であるH. ヴィンシャーマン、H. リリング、H. J. ロッチュ、M. コルボ、R. ヤコブス等率いる、ドイツ・バッハゾリステン、シュトゥットガルト・バッハ合奏団、ゲヒンゲン聖歌隊、聖トマス教会聖歌隊、RIAS室内合唱団等の演奏会に度々出演し信頼を勝ち得ている。1985年ザルツブルク音楽祭に招かれ、R. バードー指揮のモーツァルテウム管弦楽団、ベルリン聖ヘドヴィッヒ聖歌隊とバッハ・マニフィカト等を共演、絶賛を博した。在独中はヴェストファーレン州立歌劇場等で「グリゼルダ」のコッラード、「フィデリオ」のヤッキーノ、「コシ・ファン・トゥッテ」のフェランド役で出演。現在までリサイタル18回を数え、レコード・CDも十数本、またテレビ、FM等にも度々出演している。1970年東京芸大バッハ・カンタータ・クラブの創設に携わり、多くの後進を育てるとともに指揮者としての活動を開始。以後、約30年にわたって主に宗教曲の演奏に冴えをみせ、そのいずれもが名演の誉れ高い。特に盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団を率いての3度にわたるドイツ公演では『シュッツ、バッハの世界的担い手』とした最大級の賛辞が新聞各紙に掲載され、1993年のヴィンシャーマンとのマタイでは『マタイ演奏史上、最も特筆されるべき演奏の一つ』、また1995年のJ. ツィルヒとの天地創造では『音楽と言葉の見事なまでの融合』と、その音楽作りが絶賛された。1987、88年には、リリング音楽監督のバッハ・アカデミーにてTen. マスタークラスの講師を務め、またコダーイ・サマースクールや古楽サマースクール等でも指導講師に招かれるなど、その指導力については世界的に定評がある。1994年、長年にわたる顕著な演奏・教育の業績に対し、第47回岩手日報文化賞（学芸部門）が贈られた。現在、岩手大学教育学部音楽科教授。二期会会員。グルッペ・ベッヒライン会員。日本声楽発声学会理事。日本発声指導者協会常任理事。仙台バッハ・アカデミー理事。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団、岡山バッハ・カンタータ協会、岩手大学合唱団、東北大学混声合唱団各常任指揮者。水戸バッハ・コレギウム音楽顧問。



剣持 清之
(オルガン)

国立音楽大学卒業。伴奏ピアニストとして演奏活動を始め、国立音楽大学教授佐藤峰子氏主催重唱研究会専属伴奏者、同氏の演奏会での伴奏を務め研鑽を積む。パンセ・ア・ラ・ミュージック社の声楽教材「コンコーネ 50 番」伴奏テープ録音。

チェンバロを西川清子氏に師事し、チェンバロ奏者、通奏低音奏者として活動の場を広げ、1985 年ビデオ・ディスク「チェンバロのすべて」録音。

1986 年より盛岡在住。1991 年海老澤敏氏によるモーツァルト没後 200 年記念講演にてピアノ協奏曲を演奏（仙台）。1992 年より盛岡バッハ・カンタータ・フェライン（M. B. K. V）オルガニストを務め、ドイツ演奏旅行での通奏低音、佐々木正利氏、岩城宏之氏、H. J. ロツチュ氏指揮の M. B. K. V 演奏会において通奏低音を務める。1993 年佐々木正利氏リサイタルの通奏低音。1994 年仙台 N T T 主催チェンバロ・リサイタル。95 年「トリオ・フィオリレー」とのモーツァルト室内楽リサイタル。金沢市において「アンサンブル金沢」演奏会での通奏低音。1998 年チェンバロ・リサイタル。パリ・ユネスコホールにて H. ヴィンシャーマン指揮、バッハ「ロ短調ミサ曲」の通奏低音を務める等、近年各種演奏会において、チェンバロ、通奏低音、伴奏ピアニストとして活動の場を広げている。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン・オルガニスト。グルッペ・ベッヒライン会員。盛岡大学短期大学部助教授。岩手大学教育学部音楽科非常勤講師。



盛岡バッハ・カンタータ・フェライン （合唱）

1977 年「カンタータを歌う会」として発足。以来、一貫して J. S. バッハの作品を中心としたドイツ・バロック合唱曲の研究、演奏を行っている。その演奏が、1991 年ドイツにおいて「作品の語感、音、そして精神の完熟」という現地新聞の批評を受けるに至るまでには常任指揮者、佐々木正利のドイツ・バロック音楽に対する卓越した見識に基づく、熱意溢れる指導の積み重ねがあった。

佐々木は超一流のエヴァンゲリストとして評価されるその発音、語感、様式感をもう一つのライフワークである合唱団の育成に注ぎ込み、その結果「＜言葉が生きる＞と＜音楽が生きる＞とは歌の世界では同義語である」というカンタータ・フェラインの音楽信条が演奏上の身上となるに至ったのである。

その後、H. ヴィンシャーマン、H. J. ロツチュ、J. ツィルヒ、岩城宏之等、世界的指揮者との共演を重ね、各指揮者より、ドイツ・バロック音楽を音楽的かつ人間的に表現できる合唱団として、熱い評価を得るようになった。この評価は、声の充実を追求する合唱団や、古楽器的な歌唱法を駆使して鮮烈な表現を目指す合唱団に与えられるものとは性格を異にする。暖かい音色を基調としながら、音楽の刻々と変化する様相を、その時々に対応しいニュアンスで大胆かつ繊細に、確信を持って表現しきろうとする、あくまで人間バッハへの共感を基調とする合唱団に対してのものなのである。

ミュンヘンのヘラクレスザールでハイドンの「天地創造」を演奏する（ニュルンベルク交響楽団）同じ週に、各地教会でア・カペラの小品を歌う。カンタータ・フェラインは、常に盛岡の教会での練習で培ったトーンを原点として活動してきた。今回のプログラムは、フェラインの合唱団の魅力を、より身近に楽しめる選曲により構成されている。



プログラム ノート

— ドイツ・プロテスタント音楽の

ルーツをたどって —



盛岡バッハ・カンタータ・フェライン
サブ・コンサートマスター 佐々木 幹雄

●ドイツ・プロテスタント音楽とは

ヨーロッパの音楽はキリスト教音楽に由来するといわれる。音楽は神との関係で教会において大切にされ、長い歴史の中で変貌を遂げてきた。

プロテスタント音楽は 16 世紀前半のM.ルター(1483-1546)による宗教改革にはじまる。ルターは、神への信仰と隣人への愛の奉仕のみに罪のゆるしがあるとして、それまでの教会(後のカトリック教会)のありようを批判し、結果的に「宗教改革」と呼ばれる改革を行うこととなった。数々の彼の著作のうち音楽において特に重要なものはドイツ語に訳された聖書そのものに加えて『教会における礼拝について』(1523)と『ドイツ・ミサと礼拝の順序』(1525)である。これらによって、それまでの教会ミサで行われていた「ミサ通常文」の一部を「コラール」と呼ばれる賛美歌にとって変えた。「コラール」とは、それまでラテン語により司祭などの聖職者によって歌われていた神の賛美の歌にかわって、教会に集った会衆によってドイツ語で歌われる賛美歌である。その旋律には新しく作られたものもあったが、すでに歌われ親しまれている旋律を使うことも多かった。それは、ルターが多くの人々に直接に神への信仰を持つことを願ったからである。

聖書の文言を含めその他多くの宗教的内容がドイツ語で歌われるようになったというこの事実は、その後のドイツ音楽に大きな影響を与えることとなる。それは、ドイツ語と音楽との結びつきを深めていくきっかけとなったからである。

ドイツ語は、それまで教会音楽に用いられていたラテン語と違って、話す音とその意味が完全に一致している。例えば、ドイツ語のアクセントはすべての語形を通じて同じ位置に止まっているので、その語の響きを聞くと自然とその言葉の意味内容がうかんでくる、といった具合

である。これは「語感」とも言えるものであり、この語感をどのように音楽で表現するかという点が、それ以降、ドイツの作曲家による声楽作品のなかで深められていくのである。

さらに、ドイツ語のもつ固定されたアクセントには強弱および弱強があり、このアクセント構造が音楽にリズムを与える。「弱」のアクセントは「強」のアクセントに流れ込み、「強」のアクセントは「弱」のアクセントに尾を引くといったように、「強」のアクセントは他の「弱」のアクセントを支配する。ここに、発音される際の音の方向が生じ、音楽の流れに通じるものとなる。

このように、「ドイツ語の音楽化」(あるいは「音楽のドイツ語化」)のきっかけを作り促したのがルターの宗教改革であり、その中で作り出され発展してきたのが「コラール」だったのである。



●H. シュッツ作曲

『ダビデ詩篇』より SWV29, 36, 35

ルターより遅れることほぼ100年、そしてJ. S.バッハよりちょうど100年早く生まれたドイツのハインリッヒ・シュッツ(1585-1672)はヴェネツィアでG.ガブリエリに師事し、ヴェネツィア楽派の複合唱様式やコンチェルト様式をドイツにもたらした音楽家である。音楽史的にはドイツにおける初期バロック音楽の代表として「3S」(ほかにはザムエル・シャイト、ヨハン・ヘルマン・シャインがいる)に数えられる。

1617年以降ドレスデンの宮廷楽長として活躍したシュッツは、就任の2年後にあたる1619年に旧約聖書の「詩篇」から、後にエルサレムの王となるダヴィデによって歌われたといわれる詩のうちの26編を選んでモテットの様式で作曲し出版した。これが『ダヴィデ詩篇曲』(SWV22~47)である(ちなみに、1626年にはフ

ライベルクにて160曲からなる『ダヴィデ詩篇曲』(SWV97~256)を出版している)。

旧約聖書に登場するダヴィデは豎琴の名手でもあり、詩才にもすぐれ、勇気と指導力をもつ勇敢な戦士でもあった。しかしその若年時代にはその戦功ゆえ王サウルに追われて逃亡生活をしいられた。ダヴィデの詩の多くはこの逃亡・流浪時代につくられたと考えられている。

シュッツは、この苦悩し神に救いを求めるダヴィデの詩を、ルターによって訳されたドイツ語のもつ、強弱のアクセントからくる力強さを生かして音楽化し、さらに、前節で述べたようなドイツ語のもつ語感を音楽的に表すことに成功した。また、バロック時代の音楽表現において一般的であったフィギュル(音象徴。歌詞の内容をあらわすあるきまった音型。例えば、水の「流れ」には八分音符の順次下行音型、「高い」には高音への跳躍や保持された高音などを使う)を用いて作曲した。多くは二重合唱と通奏低音という編成でかかれており、二つの合唱団の掛け合いが呼び交わすイメージと重なっている。

『詩篇第84篇』

あなたの住まいはいかに麗しいことか

SWV29

この曲も二重合唱の編成でかかれている。2つの合唱とも4声部であるが、第1合唱はSoprano I,II,Alto,Tenor I、第2合唱はTenor II,III,Bass I,IIと、対等(同質)な音楽を分担しているわけではない。それは音域にもあらわれており、当然のことながら第2合唱のほうが低い音域で歌う。

『詩篇第100編』

主にむかいて歓呼の声をあげよ

SWV36

この曲は4声部による大合唱(Grosser Chor)と同じく4声部による小合唱(Kleiner Chor)の編成でかかれている。全般に大合唱が音楽をリー

ドし、小合唱は大合唱の響きをうけてまるでエコーのように歌われる。

『詩篇第 98 篇』

主にむかいて新しき歌をうたえ』

SWV35

それぞれ4声部からなる対等な二重合唱で演奏される。ホモフォニー（和声的音楽）を基調としながらも随所にポリフォニック（対位法的音楽）な進行をとりいれて、歌詞内容を表している。全体を通して第1合唱のテノールが他の7声部をリードしていく。

XXXXXXXXXX

● J. S. バッハ作曲

『イエスよ、わが喜び』 BWV227

J. S. バッハ(1685~1750)は、後半生を過ごしたライプツィヒにてこのモテットを作曲した。1723 年に行われたある葬儀のための追悼礼拝音楽として作曲されたという説もあるが、明確な資料は残っていない。

テキストはヨハン・クリューガー作(1653)の同名のコラール（J. フランク作曲）の全節(1-6 番)が第 1,3,5,7,9,11 曲に配置され、その各節の間にはローマ人への手紙、第8章の第1,2,9,10,11の各節がはさまれており、コラールで歌われる歌詞を注釈するというかたちがとられている。曲の構成は完全なシンメトリー構造がとられており、その中心(第6曲)には壮大な5声のフーガがおかれている。

6 回登場するコラールの旋律はほぼ同じ(第5曲は大幅に変奏が加えられている)であるが、そこに現れる歌詞や精神によって和声付けや各パートの動き、言葉の繰り返し方が毎回異なっている。切実にイエスを求める内省的な音楽であったり(第1曲)、激しく悪魔が荒れ狂う様子であったり(第3曲)というように、歌詞のアフェ

クト（情感）に応じた豊かな着想を、バッハは多彩な和声と下声部のリズムによって表現している。さらに聖句の部分にはコラールに登場するメロディーラインを生かしており、全曲の音楽的一貫性が保たれている。内容的にはコラールとコラールの間に聖句が挿入されることによってコラールの歌詞の意味内容を補完し、熱烈な信仰に立ったときキリストによる救いが得られると説く。前半はイエスに対する信仰告白で始まり、中間部での肉と霊との戦いを通して、イエス・キリストを信じる者の霊の勝利を歌い上げる勝利宣言で締めくくられる。

1 つのコラールをもとに作曲されていながらもまったく飽きることなく、実に多彩でなおかつテキストのもつ意味をより深める変奏の極致とも言えるモテットである。

XXXXXXXXXX

● F. メンデルスゾーンの作品

F. メンデルスゾーン(1809-1847)は、ドイツの知識と芸術の中心都市ベルリンの上層中流階級の家庭に、J. S. バッハの没後、およそ60年の19世紀初頭に生まれた。幼いときから学問と芸術に親しみ、最初期の作品は1820年ころのもので、メンデルスゾーン弱冠11歳である。彼は主にJ. S. バッハの対位法技法とモーツァルトの古典派様式から作曲上の影響を受けたと言われている。

彼が指揮者として携わったJ. S. バッハの『マタイ受難曲』復活蘇演(1829)がバッハ復興運動と教会音楽への関心およびドイツの歴史主義への引き金となったのであるが、彼はその10年ほど前からJ. S. バッハの作品に、彼自身が会員であったベルリンの「ジングアカデミー」という合唱協会に出会っている。

メンデルスゾーンにはピアノ曲や交響曲のみならず声楽曲も多く、中でも宗教的な作品が多い。これらは旧約聖書に題材をとったヘンデル

的なオラトリオや、詩篇への曲付けなどである。本日演奏する3つの宗教的な合唱曲はいずれもオルガン以外は器楽伴奏がつかない、よりア・カペッラに近い編成で作曲されている。これらは19世紀に醸成された「聖」のイメージを反映している。

『生の只中にありて(Mitten wir im Leben sind)』と『アヴェ・マリア(Ave maria)』は『深き淵より我汝を呼ぶ(Aus tiefer Not schrei ich zu dir)』とともに『3つの宗教曲』(作品23)と題されて1830年にボンで出版された。これらの3曲はメンデルスゾーンが同年の秋から冬にかけてローマに滞在したとき、ルターのコラールに強い関心をもっていた時期の作品でもある。

『生の只中にありて』(作品23の3)は8世紀に作られたコラールを主な題材としている。メンデルスゾーンは、もともとは長調的な響きであったコラール旋律を短調(ハ短調)におきかえて生きることの苦悩を表し、対比的にそこから突然長調に転調してコラール旋律に縛られない自由な変奏部分を加えることによって、ロマン派的な神聖な神のイメージの響きをつくりだしている。『アヴェ・マリア』(作品23の2)は、第1テノールを主とした8人(各声部が2つずつ)のソリストと8声部の合唱のために書かれている。6/8拍子の包み込むようなイメージをもった前半部と後半部をもち、4/4拍子で男声と女声の対比による祈るような中間部をもっている。

『今このとき(Hora est)』は、4群の4部合唱つまり16声部の合唱とオルガンのために書かれたラテン語の作品である。この作品は彼が19歳の時、姉ファニーの23歳の誕生日にプレゼントされたものであり、当時盛んとなりだしたアマチュア合唱団の一つであるC.F.ツェルター率いる前述のベルリン・ジングアカデミーのために作曲されたものである。歌詞はおそらくいくつかの典礼から選び出されて一つにされたものであろうと考えられている。「・・・第1部はまるで『目覚めよとの太古の呼び声』のように『祭

司や殉教者や聖者の合唱のゆらぎ』によって『礼拝の訓戒のようにまじめに、また遠くから鳴り響き賛美する鐘の音が鳴っている時』をあらわすように歌われた。・・・」(A.B.マルクス)と評されたように、人々のもっている宗教的な魂を鼓舞し「今こそ眠りから覚め、キリストに向かって進むときである」という19世紀に登場した「ロマン主義」的な精神内容を音楽に反映させている。



ドイツ・プロテスタント音楽は以上のように発展をとげてきた。すなわち、15世紀にルターが宗教音楽にドイツ語を採り入れ、16世紀にはシュッツが「ドイツ語の音楽化」に成功し、17世紀にはJ.S.バッハがポリフォニー技法や和音進行を深めるたことによりさらに音楽的に多彩さを増し、宗教音楽としてはほぼ完成をみた。

その後、19世紀に入ってから市民社会時代になって、メンデルスゾーンが演奏会用の「作品」としての教会音楽をロマン主義的な要素を採り入れながら創り出したことによって、「ドイツ・プロテスタント音楽」が教会の中だけでなく広く市民社会に「音楽芸術」として受け入れられることになったのである。

99.4.13

《 歌 詞 対 訳 》

第 1 部

ダビデ詩篇曲より

Psalmen Davids

訳：加藤 緒理絵

"Wie lieblich sind deine Wohnungen"
Der 84. Psalm(SWV 29)

Wie lieblich sind deine Wohnungen,
Herre, Zebaoth!

Mein 'Seel' verlangt und sehnet sich
nach den Vorhöfen des Herren,
mein Leib und Seele freuet sich
in dem lebendigen Gott.

Denn der Vogel hat ein Haus funden
und die Schwalbe ihr Nest, daß sie Junge hecken,
Nämlich deine Altar, Herre Zebaoth,
mein König und mein Gott.

Wohl denen, die in deinem Hause wohnen,
die loben dich immerdar, Sela.

Wohl den Menschen,
die dich für ihre Stärke halten
und von Herzen dir nachwandeln.

Die durch das Jammertal gehen
und graben daselbst Brunnen.

Und die Lehrer werden mit viel Segen geschmückt,
sie erhalten einen Sieg nach dem andern,
daß man sehen muß,
der rechte Gott sei zu Zion.

Herr, Gott Zebaoth, höre mein Gebet,
vernimm's, Gott Jakob! Sela.

あなたのお住まいは何と慕わしいことでしょう
詩篇第 84 篇

万軍の主よ、
あなたのお住まいはなんと慕わしいことでしょう。

私の魂は主の大庭を恋い慕って絶え入るばかりで
す。
私の身と心は生ける神に喜びの歌を歌います。

なぜなら、雀さえも住みかを見つけました。
つばめもひなを入れる巢、
あなたの祭壇を見つけました。
万軍の主、私の王、私の神よ。

何と幸いなことでしょう、
あなたの家に住む人たちは。
彼らはいつもあなたをほめたたえています。

何と幸いなことでしょう、
その力があなたにあり、
その心の中にシオンへの大路のある人は。

彼らは涙の谷を通りすぎる時も
そこを泉のある所とします。

説教師達が多くの祈りによって飾りたてられ、
彼らが次々と勝利を得るとしても、
真実の神はシオンに居るということを人はみるで
しょう。

万軍の神、主よ、私の祈りをおききください。
ヤコブの神よ、耳を傾けてください。

Gott, unser Schild, schau doch,
siehe an das Reich deines Gesalbten!

Denn ein Tag in deinen Vorhöfen ist besser, denn sonst
tausend.
Ich will lieber der Tür hüten
in meines Gottes Hause
denn lange wohnen in der Gottlosen Hütten.

Denn Gott der Herr ist Sonn' und Schild,
der Herr gibt Gnad und Ehre.
Er wird kein Gutes mangeln lassen den Frommen.

Herr Zebaoth, wohl dem Menschen,
der sich auf dich verläßt!

"Jauchzet dem Herren, alle Welt"
Der 100. Psalm(SWV 36)

Jauchzet dem Herren, alle Welt!

Dinet dem Herren mit Freuden,
kommt vor sein Angesicht mit Frohlocken!

Erkennet, daß der Herre Gott ist!
Er hat uns gemacht,
und nicht wir selbst,
zu seinem Volk und zu Schafen seiner Weide.

Gehet zu seinen Toren ein mit Danken,
zu seinen Vorhöfen mit Loben
danket ihm, lobet seinen Namen!

Denn der Herr ist freundlich
und seine Gnade währet ewig
und seine Wahrheit für und für.

Ehre sei dem Vater und dem Sohn
und auch dem Heil'gen Geiste,
wie es war im Anfang, jetzt und immerdar
und von Ewigkeit zu Ewigkeit. Amen.

神よ、われらの盾を御覧下さい。
あなたの油そそがれた者の顔に目を注いで下さい。

あなたの大庭にいる一日は、
よそにいる千日にもまさるのです。
私は主に逆らう者の天幕に長らえるよりは、
むしろ、私の神の宮の門口に立ちたいのです。

主なる神は太陽です、盾です。
主は恵みと栄光とを授けます。
正しく歩む者に良い物を拒まれることはありません。
万軍の主よ、何と幸いなことでしょう、
あなたに信頼するその人は。

全地よ！主にむかいて歓呼の声をあげよ
詩篇第 100 篇

全地よ！主にむかいて歓呼の声をあげよ。

喜びをもって主に仕えよ。
喜び歌って、そのみ前に進み出よ。

主こそ神であることを知れ。
主が私たちを造られた。
われらは主のものである。
われらはその民、その牧の羊である。

感謝しつつ、その門に進み、
ほめたたえつつ、その大庭に入れ。
主に感謝し、御名をたたえよ。

主はいつくしみふかく、
その恵みはとこしえまで、
そのまことは代々に至るからである。

父と子と聖霊に栄光あれ。
初めにそうであったように今もこれからも
代々とこしえに。アーメン。

“Singet dem Herrn ein neues Lied”
Der 98. Psalm (SWV 35)

Singet dem Herrn ein neues Lied,
denn er tut Wunder.
Er sieget mit seiner Rechten
und mit seinem heil'gen Arm.

Der Herr lässet sein Heil verkündigen;
vor den Völkern
läßt er seine Gerechtigkeit offenbaren.

Er gedenket an seine Gnade und Wahrheit
dem Hause Israel.
Aller Welt Enden sehen
das Heil unsers Gottes.

Jauchzet dem Herren, alle Welt;
singet, rühmet und lobet!

Lobet den Herren mit Harfen,
mit Harfen und Psalmen!

Mit Drommeten und Posaunen
jauchzet vor dem Herrn, dem Könige!

Das Meer brause und was drinnen ist,
der Erdboden und die drauf wohnen.

Die Wasserströme frohlocken,
und alle Berge sind fröhlich
vor dem Herrn;

denn er kommt, das Erdreich zu richten.
Er wird den Erdboden richten mit Gerechtigkeit
und die Völker mit Recht.

Ehre sei dem Vater und dem Sohn
und auch dem Heiligen Geiste,
wie es war im Anfang, jetzt und immerdar
und von Ewigkeit zu Ewigkeit. Amen.

主にむかいて新しき歌をうたえ
詩篇第98篇

主にむかいて新しき歌をうたえ。
主はくすしきみわざをなされ
その右の手と聖なる腕とが、
主に勝利をもたらしたのだ。

主は御救いを知らしめ
その義をもろもろの国民の前にあらわされた。

主はイスラエルの家への恵みと真実を覚えておられ
る。
地の果てまでもがみな、
われらの神の救いを見た。

全地よ、主にむかって喜ばしき声をあげよ。
声を放って喜び歌え、ほめうたえ。

豎琴に合わせて主をほめ歌をうたえ。
琴と歌の調べに合わせて。

ラッパと角笛の音に合わせて
王なる主の御前に喜ばしき声をあげよ。

海とその中に満ちるもの、
世界とそのうちに住む者よ。鳴りとどろけ。

もろもろの川よ、手を打ち鳴らせ
山々もこぞって主の御前に喜び歌え。

確かに主は地をさばくために来られる。
主は義をもって世界をさばき、
公平をもつてもろもろの民をさばかれる。

父と子と聖霊に栄光あれ、
初めにそうであったように今もこれからも
代々とこしえに。アーメン。

第2部

モテット第3番「イエスよ、わが喜び」

Motette "Jesu, meine Freude" BWV227

訳：佐々木 正利

CHORAL

Jesu, meine Freude,
meines Herzens Weide,
Jesu, meine Zier,
ach, wie lang, ach lange,
ist dem Herzen bange,
und verlangt nach dir!
Gottes Lamm, mein Bräutigam,
außer dir soll mir auf Erden
nichts sonst Liebers werden.

CHOR

Es ist nun nichts Verdammliches an denen,
die in Christo Jesu sind,
die nicht nach dem Fleische wandern,
sondern nach dem Geist.

CHORAL

Unter deinem Schirmen
bin ich vor den Stürmen
aller Feinde frei.
Laß den Satan wittern,
laß den Feind erbittern,
mir steht Jesus bei!
Ob es jetzt gleich kracht und blitzt,
ob gleich Sünd und Hölle schrecken;
Jesus will mich decken.

TERZETT

Denn das Gesetz des Geistes,
der da lebendig machet in Christo Jesu,
hat mich frei gemacht von dem Gesetz
der Sünde und des Todes.

CHORAL

Trotz dem alten Drachen,
trotz des Todes Rachen,
trotz der Furcht dazu!

コラール

イエスは、私の喜びであり、
私の心の糧です。
また、私の誇りでもあるイエスよ、
ああ、何と長い間、
心を痛め続け、
あなたを求めてきたことでしょう。
神の子羊、私の花婿よ、
私にとっては、あなたを除いて、
この地上には大切なものはありません。

5部合唱

今や、キリスト・イエスにつながる人や
肉によって人生を歩むのではなく、
聖霊によって歩む人が
罪に定められることは決してありません。

コラール

あなたの保護のもとにあるかぎり、
たとえ嵐の前であろうと、私は
すべての敵から解き放たれます。
悪魔が咆哮しようとも、
敵が怒りをあらわにしようとも
私には、イエスがついています。
たとえ、雷鳴轟き、閃光が走っても、
また、罪咎や地獄が私を脅かしても、
イエスは、私を守って下さいます。

3部合唱

なぜなら、キリスト・イエスにあって
いのちを得た霊の原理が、
罪と死の原理から、
私を解放したからです。

コラール

年老いた悪竜をも、もろともせず、
死の報復や、その恐怖にも
全く動じません。

Tobe, Welt, und springe,
ich steh hier und singe
in gar sichrer Ruh!
Gottes Macht hält mich in acht;
Erd und Abgrund muß verstummen,
ob sie noch so brummen.

CHOR

Ihr aber seid nicht fleischlich,
sondern geistlich,
so anders Gottes Geist in euch wohnt.
Wer aber Christi Geist nicht hat,
der ist nicht sein.

CHORAL

Weg mit allen Schätzen,
du bist mein Ergötzen,
Jesu, meine Lust!
Weg, ihr eitlen Ehren,
ich mag euch nicht hören,
bleibt mir unbewußt!
Elend, Not, Kreuz, Schmach und Tod
soll mich, ob ich viel muß leiden,
nicht von Jesu scheiden.

TERZETT

So aber Christus in euch ist,
so ist der Leib zwar tot
um die Sünde willen;
der Geist aber ist das Leben
um der Gerechtigkeit willen.

CHORAL

Gute Nacht, o Wesen,
das die Welt erlesen,
mir gefällt du nicht!
Gute Nacht, ihr Sünden,
bleibet weit dahinten,
kommt nicht mehr ans Licht!
Gute Nacht, du Stolz und Pracht!
Dir sei ganz, du Lasterleben,
Gute Nacht gegeben!

この世が飛びはね、荒れ狂おうとも、
私は、ここに立って
ゆうゆうと歌をうたいます。
神の御力が私を気遣い続けて下さるからです
大地や地獄よ、おし黙らねばなりません。
まだ、そんなにブツブツ文句を言いたいとしても。

5 部合唱

神の御霊が、あなた方の内に住んでおられるなら、
あなた方は、肉の中にではなく、
御霊の中にいるのです。
キリストの御霊を持たない人は、
キリストのものではありません。

コラール

あらゆる財宝もなく構いません。
イエスよ、あなたは私の慰めであり、
喜びであるからです。
空しい名誉もいりません。
私は、それに耳を貸したいとも思いませんし、
気に止めようとも思いません。
不幸や苦悩、十字架、恥辱、そして死によって
たとえ、耐え忍ぶことが多くても、それらが
私をイエスから引き離すことはありません。

3 部合唱

そして、キリストがあなたの内におられるなら
からだは、罪のゆえに
死んでいても、
霊が、義のゆえに
生きています。

コラール

おやすみ、ああ、この世の存在よ。
おまえが、より選った貴重なものも、
私にとっては、気に入るものではありません。
おやすみ、おまえたち罪々よ。
はるか離れた後方に留まって、
これ以上、光の前に出て来ませんように。
おやすみ、虚栄と虚飾よ。
おまえたち、悪業の数々には、きっぱりと
おやすみが与えられますように。

CHOR

So nun der Geist des,
der Jesum von den Toten auferwecket hat,
in euch wohnt, so wird auch derselbige,
der Christum von den Toten auferwecket hat,
eure sterblichen Leiber lebendig machen,
um des willen,
daß sein Geist in euch wohnt.

CHORAL

Weicht, ihr trauergeister,
denn mein Freudenmeister,
Jesus, tritt herein.
Denen, die Gott lieben,
muß auch ihr Betrüben
lauter Zukker sein.
Duld ich schon hier Spott und Hohn,
dennoch bleibst du auch im Leide,
Jesu, meine Freude.

5部合唱

今や、イエスを死者の中から
甦らせたお方の御霊が、あなた方のうちに
住んでおられるなら、またそれと同様に
キリストを死者の中から甦らせた方が、
あなた方のうちに住んでおられる
御霊によって、あなた方の、死ぬべき
からだをも生かして下さいのです。

コラール

退きなさい、あなた方、悲嘆の心よ。
そうすれば、私の喜びの主である
イエスは、ここへおいでになられます。
神を愛する者にとっては、
悲しみの心もまた、
大きな幸せとなるのです。
私が、嘲りや侮辱にこのように堪えられるのも
あなたが、なおも苦悩のうちに留まっておられるから
です。
イエスよ、私の喜びよ。

第3部

3つのモテットより

Drei Kirchenstücke

訳：佐々木 正利

Mitten wir im Leben sind Op23-3

Mitten wir im Leben sind mit dem Tod umfängen.
Wen such'n wir, der hilfe tu' daß' wir Gnad' erlangen?
Das bist du, Herr, alleine!
Uns reuet unsre Missetat, die dich Herr, erzürnet hat.
Heiliger Herre Gott! Heiliger, starker Gott!
Heiliger, barmherziger Heiland! Du ewiger Gott.
Laß uns nicht versinken in des bittern Todes Not!
Kyrie eleison.

Mitten in dem Tod anfight uns
der Höllen Rachen.

生の只中にありて

生の真っ只中にある我々だが、死によって抱かれてい
る。
我々に恵みを与え、助けて下さる方は誰であろうか。
それは、主、あなただけである。
主よ、あなたを怒らせることになった悪行を我々は後
悔している。
聖にして主なる神、聖にしていと強き神、
聖にして憐れみ深い神、あなた永遠の神よ。
我々を、むごき死の苦悩の中に沈めないで下さい。
主よ、憐んで下さい。

死の真っ只中にある我々を、
地獄の口は脅かしている。

Wer will uns aus solcher Not
frei und ledig machen?
Das tust du, Herr, alleine!
Es jammert dein' Barmherzlichkeit unsre Sünd
und großes Leid.
Heiliger Herre Gott! Heiliger, starker Gott!
Heiliger, barmherziger Heiland! Du ewiger Gott.
Laß uns nicht verzagen
vor der tiefen Höllen Glut!
Kyrie eleison.

Mitten in der Höllen Angst
unsre Sünd uns treiben.
Wo soll'n wir denn fliehen hin,
da wir mögen bleiben?
Zu dir, Herr Christ, alleine!
Vergossen ist dein teures Blut,
das genug für die Sünde tut.
Heiliger Herre Gott! Heiliger, starker Gott!
Heiliger, barmherziger Heiland! Du ewiger Gott.
Laß uns nicht entfallen
von des rechten Glaubens Trost.
Kyrie eleison.

Ave Maria Op23-2

Ave Maria, gratia plena:
Dominus tecum,
benedicta tu in mulieribus,
Sancta Maria,
ora pro nobis peccatoribus,
nunc et in hora mortis nostri.

Hora est

Hora est, jam nos de somno
et apertis oculis cordis
surgere ad Christum,
quia lux vera est fulgens in coelo.
Ecce apparebit Dominus
super nubem candidam
et cum eo sanctorum millia.

我々を、このような苦悩の中から
誰が解き放って下さるだろうか。
主よ、あなただけがそれを行って下さる。
あなたの憐れみは、我々の罪と
大いなる苦悩がゆえに心痛められる。
聖にして主なる神、聖にしていと強き神、
聖にして憐れみ深い神、あなた永遠の神よ。
我々を、深き地獄の灼熱の炎の前に
ひるませないで下さい。
主よ、憐れんで下さい。

我々の罪が、地獄の恐怖の真っ只中に
我々を追い込む。
もし、我々が留まれるとしたなら、
どこに逃れ込んだらよいのか。
主なるキリストよ、それはただあなたの許へ。
あなたの流された貴い血潮は、
我等の罪をあがなうに十分です。
聖にして主なる神、聖にしていと強き神、
聖にして憐れみ深い神、あなた永遠の神よ。
我々を、まことの信仰の慰めより、
離れさせないで下さい。
主よ、憐れんで下さい。

アヴェ マリア

おめでとう、マリア。恵みに満ちた方。
主が、あなたとともにおられます。
あなたは、女の中の祝福された方。
聖なるマリア。
罪人である私たちのために、お祈り下さい。
今も、そして私たちの臨終のときにも。

今こそ、その時

今や我々が、眠りから覚め
そして、心の目を見開いて
キリストに向かって立ち上がる時である。
何故なら、天に真の光が輝き出したからである
そら見よ、純白の雲の上に
主が現れ、
また、彼と共に幾多の聖者が現れるであろう。

合唱団メンバー

ソプラノⅠ

阿 部 友紀子	小笠原 忍	小野寺 貴 子	川 村 真 由	菊 池 福 子
佐々木 玲 子	佐 藤 千 砂	菅 村 雅 子	田 口 れい子	田 村 いずみ
丹 野 貞 子	野 口 淑	福 田 温 子	横 内 愛 理	

ソプラノⅡ

浅 沼 寛 子	阿 部 靖 子	石 岡 裕 子	菊 池 篤 子	菊 池 節 子
熊 谷 充 代	斉 藤 純 子	佐 藤 温 美	佐 藤 智恵子	高 橋 聡 子
高 橋 菜穂子	藤 崎 美 苗	三 原 佳 織	柳 田 松 子	矢 幅 嘉 子
吉 田 澄 江				

ア ル ト

小 川 暁 美	小 川 暁 子	小田島 千 恵	小野寺 洋 子	加 藤 緒理絵
金 子 千 鶴	桐 原 絹 子	近 藤 葉 子	今 野 早 苗	佐々木 美智子
佐 藤 恵	須 川 加奈子	鈴 木 栄見子	武 田 匡 子	武 田 敏 恵
丹 野 ま り	千 田 加代子	中 野 和 子	早 川 芙美子	廣 瀬 利津子
福 田 祐 子	茂 木 容 子	山 下 美香子	吉 田 まき子	

テノール

及 川 豊	太 田 穎 則	小 川 隆 弘	小山内 薫	織 田 靖 夫
加 藤 照 道	斉 藤 健	佐々木 幹 雄	菅 野 松佐登	菅 原 伸 作
武 田 宏	田 代 亮	寺 沢 敬 行	徳 山 欣 也	中 川 喜 之
中 野 寛 司	三 原 正 敏	目 黒 賢 哉	吉 村 哲	

バ ス

赤 塚 貴 史	東 勝	阿 部 学	稲 葉 正 俊	小 原 一 穂
小 原 竜 太	佐々木 直 樹	佐 藤 和 久	武 田 宏 之	田 沢 隆
千 田 敬 之	芳 賀 郁 夫	藤 澤 昌 裕	戸 来 百 樹	松 岡 静 一
横 山 泉	吉 田 俊 彦	渡 辺 信 之		

団員募集中

盛岡バッハ・カンタータ・フェラインでは団員を募集しています。合唱が好きな方ならば、年齢、経験を問わず歓迎します。まず、練習をのぞいて見て下さい。

練習日時：毎週火曜日午後6時半～9時まで

練習場所：盛岡市内丸教会（盛岡中央郵便局から与ノ字橋方向へ向かい、200m右側）

お問合せ：TEL 019-665-1614（渡辺信之）

盛岡バッハ・カンタータ・フェラインの歴史

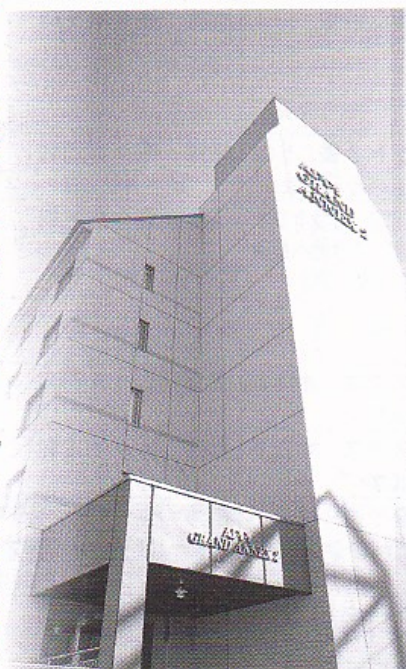
1977年に発足以来「J. S. バッハの教会カンタータの研究と演奏を通して音楽芸術を追求する」ことを目的として、22年間活動が続けてきた。主な演奏会の概要は以下のとおりである。

1977年	2月 27日	「カンタータを歌う会」として発足		
	6月 28日	「盛岡バッハ・カンタータ・フェライン」に改称		
1978年	2月 26日	「バッハコンツェルト」	曲目:カンタータ 45 番、 147 番	指揮: 小林道夫 (芸大と共演)
1979年	10月 6日	「BACH ABEND」	曲目:カンタータ 158 番、 131 番	指揮: 小林道夫
1980年	2月 27日	「バッハの夕べ」	曲目:カンタータ 80 番	指揮: 小林道夫 (芸大と共演)
	12月 22日	この年より「チャリティー・コンサート」を、盛岡市内のバロック音楽愛好家グループと共催(～1997年)		
1981年	7月 4日	「BACH ABEND」	曲目:カンタータ 195 番、 182 番	指揮: 小林道夫
1982年	11月 22日	「バッハの夕べ」	曲目:カンタータ 158 番、 4 番	指揮: 佐々木正利
1985年	3月 16日 17日	J. S. バッハ生誕 300 年記念演奏会 「ヨハネ受難曲」	曲目:ヨハネ受難曲	指揮: 佐々木正利 (仙台宗教音楽合唱団と合同演奏)
	11月 3日	仙台北教会宗教音楽の夕べ「メサイア」	曲目:メサイア (G. F. ヘンデル)	指揮: 佐々木正利
	11月 29日	G. F. ヘンデル生誕 300 年記念演奏会 「メサイア」	曲目:メサイア (G. F. ヘンデル)	指揮: 佐々木正利
1986年	4月 11日	「宗教音楽の夕べ」	曲目:ドイツ・レクイエム (H. シュッツ) ほか	指揮: 佐々木正利
	4月 ～ 5月	第1回ドイツ演奏旅行	曲目:ドイツ・レクイエム (H. シュッツ) ほか	指揮: 佐々木正利
	7月 11日	「東京ソリストン演奏会」共演	曲目:スターバト・マーテル (ペルゴレージ)	指揮: 赤松 安
1987年	3月 28日	創立 10 周年記念演奏会「カンタータの夕べ」	曲目:カンタータ 34 番、 70 番、102 番ほか	指揮: 佐々木正利
	11月 27日	ムシカ・デラルテ・トウキョウ演奏会 「バロック音楽の夕べ」(主催)		
1988年	3月 12日 13日	仙台宗教音楽合唱団との合同演奏会 「ミサ曲短調」	曲目:ミサ曲短調	指揮: 佐々木正利
	9月 17日	「今仲幸雄バリトンリサイタル」(主催)		
	11月 17日	「ミヒャエル・ショッパバリトンリサイタル」(主催)		
1989年	4月 24日	「二重合唱の夕べ」	曲目:モテット 2 番、5 番 (J. S. バッハ) ほか	指揮: 佐々木正利
1990年	3月 10日 11日	盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、 仙台宗教音楽合唱団合同演奏会	曲目:クリスマス・オラトリオ 4～6 部、ミサ曲長調 (J. S. バッハ)	指揮: 佐々木正利
	10月 1日	「アグネス・ギーベル 佐々木正利 ジョイントリサイタル」(主催)		
	12月 ～翌 1月	第2回ドイツ演奏旅行	曲目:クリスマス・オラトリオ ほか	指揮: 佐々木正利
1991年	3月 10日	ドイツ演奏旅行帰国演奏会	曲目:クリスマス・オラトリオ ほか	指揮: 佐々木正利
	10月 14日 18日	「カンタータ第 140 番、コーヒーカンタータ」	曲目:カンタータ 140 番、 コーヒーカンタータ	指揮: H. ヴィンシャーマン (ドイツ・バッハソリストンと共演)
1992年	3月 21日	「バッハとメンデルスゾーンの カンタータの夕べ」	曲目:カンタータ 93 番 ほか	指揮: 佐々木正利
1993年	10月 20日 24日 29日	「マタイ受難曲」(盛岡、仙台、岡山、東京)	曲目:マタイ受難曲 (J. S. バッハ)	指揮: H. ヴィンシャーマン (ドイツ・バッハソリストンと共演)

1994年	7月25日	「カンタータ 147 番」 仙台バッハアカデミーにおいて	曲目:カンタータ 147 番	指揮:佐々木正利 (仙台 フィル・バッハアン サンブルと共演)
	12月18日	弘前市民クリスマス: G. F. ヘンデル「メサイア」演奏会に出演	曲目:メサイア (G. F. ヘンデル)	指揮:佐々木正利
1995年	4月 末 ～ 5月	第3回ドイツ演奏旅行	曲目:天地創造 (J. ハイドン) ほか	指揮:ヨセフ・ツィルヒ 佐々木正利
	8月26日	一関・東日本合唱祭参加	曲目:モテット6番ほか	指揮:佐々木正利
	9月26日	剣持清之・トリオフィオーレ「モーツァルト 室内楽の夕べ」(主催)		
	10月 8日	青山町教会チャペルコンサート	曲目:天地創造抜粋 (J. ハイドン) ほか	指揮:小原一穂
	11月22日 23日	「天地創造」(盛岡、仙台) オーケストラ・アンサンブル金沢と共演	曲目:天地創造 (J. ハイドン)	指揮:岩城宏之
1996年	3月15日	「バッハの夕べ」演奏会	曲目:カンタータ 21, 131 番 モテット4番	指揮:佐々木正利
1997年	4月13日	20周年記念演奏会	曲目:「昇天祭オラトリオ」 「マニフィカト」ほか (J. S. バッハ)	指揮:H. J. ロッチュ 佐々木正利
1998年	11月20日	「ヴィンシャーマンの口短調ミサ」演奏会 盛岡コーロ・デラ・パーチェと共演	曲目:ミサ曲口短調 (J. S. バッハ)	指揮:H. ヴィンシャーマン (ドイツ・バッハゾ リステンと共演)

なお、このほかに、クリスマス・チャリティー・コンサート、チャペル・コンサート、合唱祭、新春コーラスコンサートなどにも参加・出演している。

APPI GRAND ANNEX



K-tai・APPIエリア全域カバー
お出かけの時、ちょっと気になる携帯電話の通話エリアも、
安比高原ならエリア全域で快適通話。いざという時も安心です。
●PHSもエリア内通話が可能です

思い出づくりをおてつだいいたします。



ホテルと直結した安比温泉パティオ。露天風呂・25畳のサウナとリラグゼーションのための施設を満載。

スポーツ・音楽・ゼミナールなどグリーンシーズン合宿ステイ
夏休みの自由研究をテーマとした家族で楽しめる夏休みステイ
豊富な温泉地と雄大な自然のもとでのリラクゼーションステイ
十和田・田沢湖・盛岡などの北東北の拠点観光としてのステイ

観光と遊びのサポーター

『ステイ・アドバイザー』

安比高原の遊び方はもちろん、アクセスや
観光ルート・宿泊プランのアドバイスなどの
ご相談を承っております。

ご予約・お問合せ
安比グランドアネックス
岩手県岩手郡松尾村安比高原
TEL 0195-73-6511



「エントランスガーデン」

ロックガーデンと季節の花々の調和がくつろぎのエッセンスとなっています。夏はバーベキューガーデンとしてご利用いただいております。

日本エアシステムで行く

愛らんど日本

後援/ **A** 岩手県空港ターミナルビル株式会社
 協賛/ 岩手県空港利用促進協議会
 協力/ **JAS** 日本エアシステム

世界遺産白川郷合掌集落と 小京都高山・金沢を訪ねる3日間

■日程/①花巻空港→名古屋空港→高山観光【泊】
 ②白川郷見学→金沢観光【泊】
 ③九谷焼→永平寺→名古屋又は大阪空港→花巻空港
 ■利用ホテル/【高山】宝生閣又はグリーンホテル【金沢】金沢東急ホテル
 ■食事/朝食2回、昼食3回、夕食1回

■旅行代金と出発日

54,000円	4/26-5/11
59,000円	5/16-5/24
65,000円	5/15-5/20 7/6-7/20 9/9-9/15-9/25
69,000円	5/7-5/26
72,000円	6/11-7/3 7/16 9/3-9/21



九州～長崎・福岡を訪ねる3日間

※【長崎・阿蘇・福岡4日間コース】もご用意しています。

■日程/①花巻空港→福岡空港→長崎【泊】
 ②長崎市内観光→ハウステンボス見学→福岡【泊】
 ③福岡空港→花巻空港
 ■利用ホテル/【長崎】長崎パークサイドホテル【福岡】東京第一ホテル福岡
 ■食事/朝食2回
 ■旅行代金と出発日

49,800円	6/22-6/29 7/6-7/13
54,800円	4/20-5/24 5/9-5/23
57,800円	5/6-5/13 6/3-6/17 7/22-8/5 9/17-9/14



愛らんど日本 '99

美しい風景と出会う

<各コース>

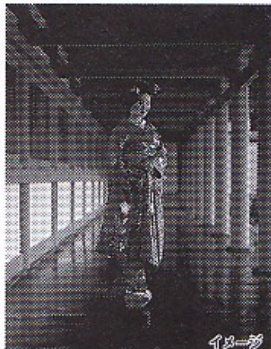
花巻空港発着
 添乗員同行
 JAS日本エアシステム利用
 募集人員45名
 最少催行人員30名

京都の休日・ 丹波篠山を訪ねる3日間

■日程/①花巻空港→大阪空港→大原三千院・しば漬本舗→京都【泊】
 ②終日フリータイム、京都【泊】
 ③丹波篠山見学(黒山城跡・古海蔵・能楽資料館・酒造館など)→大阪空港→花巻空港
 ■利用ホテル/京都東急イン
 ■食事/朝食2回、昼食2回

■旅行代金と出発日

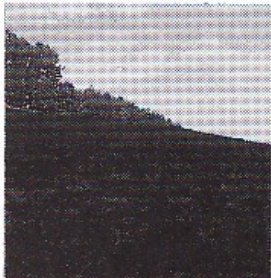
54,000円	5/11-5/18
59,000円	4/23-5/21 5/28-6/1 7/13-7/27 9/7-9/21
64,000円	6/11-6/25 7/9-8/27 9/10-9/24
68,000円	7/23-8/6 8/20



北海道～富良野・小樽を訪ねる3日間

■日程/①花巻空港→新千歳空港→美瑛町→富良野【泊】
 ②富良野観光→日高ケンタッキーファーム→夕張観光→小樽【泊】
 ③小樽市内自由見学→新千歳空港→花巻空港
 ■利用ホテル/【富良野】富良野プリンスホテル・新富良野プリンスホテル
 【小樽】オーセントホテル小樽・ヒルトン小樽
 ■食事/朝食2回、昼食2回、夕食1回
 ■旅行代金と出発日

48,500円	4/24
58,500円	5/14-5/28
68,500円	6/4-6/11 6/26
72,000円	7/1-7/4 7/5-7/6
74,000円	8/18-8/20 9/10-9/25
78,500円	8/27



お問い合わせ先・お申し込み

主催 **日通旅行** [日本通運(株)盛岡旅行営業所]
 運輸大臣登録旅行業第19号・日本旅行業協会会員

■盛岡旅行営業所
 盛岡市中央通2-11-17

■北上旅行センター
 北上市九年橋3-17-8

☎019(653)3166

☎0197(64)6321

※詳しいパンフレットをご用意しております。ご旅行条件をご確認の上お申し込み下さい。

